

令和5年4月
一橋大学

令和5年度一橋大学私費外国人留学生選抜学力試験

標準的な解答例 【日本語】

I の解答例

問 1

(1)かっきてき (2)おおうなばら (3)めぐ (4)たも (5)せば

問 2

A イ B エ C ア

問 3 解答例

(i) 誰よりも先にものごとに取り組むこと。(18字)

(ii) 思うように物事が進まずいら立つこと。(18字)

問 4 解答例

15世紀から17世紀にかけて「大航海時代」として第一次グローバル化の時代があり、人々は帆船に乗って海を越え、新たな世界を目指した。次に、18世紀から19世紀にかけて第二次グローバル化の時代が「産業革命」とともに進行した。蒸気機関の発明などの技術の進歩により、人々の行動範囲は地球大に広がるとともに、国内では工場における量産時代へと近づいて行った。(165字)

問 5 解答例

地球上のどこで起こっている出来事であっても、我々の日常と密接につながっており、すぐに日常に影響を及ぼすということ。(57字)

問 6 解答例

第三次グローバル化は、世界のつながりを強くし、国境を越えて人と人との距離を接近させたが、その結果、人々の日常は世界の出来事の影響を受けやすくなった。しかし、あまりにも接近してくると押し戻したくなるのが人の感性である。人々は、第三次グローバル化の密着感と侵略性から自分たちの日常を守ろうとして、世界との関係をむしろ遠ざけたり、断ち切ったりするようになり、かえって他国との共存を難しくしてしまうのである。(200字)

Ⅱの解答例

問1

(1) 喚起 (2) 享受 (3) 暗黙 (4) 触れないで (5) 徹底

問2 解答例

(i) 現実世界の束縛となるもの (12字)

(ii) 実際に本当かどうかわからないが、理屈に合っているように見える (30字)

問3

A : イ

B : エ

問4 解答例

離婚率が減少したのは多くの夫婦（とくに妻）が離婚を望まなくなったからだ (35字)

問5 解答例

われわれは日常生活で「心が行動の原因である」という暗黙の前提をたて、その前提にもとづいた説明を試みたり予測を試みたりする。このような「心が行動の原因である」という前提に合致している説明は直観的にわかりやすく、ふつうの人たちに大きな説得力を持っているため、マクロな社会現象を説明する際にも用いられやすい。しかし実際には、離婚率の低下や日米の弁護士の数の違いの理由は、単に離婚しやすい年代の人口の減少や両国の制度の違いといった、心に起因しないものであり、われわれはこのようなことを見落としがちである。(248字)

問6 解答例

アメリカと比べて日本における弁護士の数が少ないのは、日本人が一般に争いを好まず弁護士を必要としていないからではなく、単に司法試験の合格者数が少ないからである。

(79字)